



# 緑化建設協会だより

発行所 社団法人 石川県造園緑化建設協会 広報委員会

発行責任者 達 茂

〒920-0374 金沢市上安原町137街区7番地 TEL076-269-1110 FAX076-269-1279

## 自然の保全



石川県議会議員(当協会顧問)  
紐野 義昭

石川県造園緑化建設協会の皆様方には、日頃よりご指導ご鞭撻を賜り心より感謝申し上げます。

去る2月25日の県議会定例会の冒頭に、栄えある第89代石川県議会議長に就任することができました。これもひとえに協会の皆様方をはじめ多くの方々のご指導のお陰と心より感謝いたしております。

また、その重責に身が引き締まる思いであります。どうぞ引き続きのご支援、叱咤激励を賜りますようお願い申し上げます。

さて、温暖化防止など地球の環境問題が叫ばれ、世界中で取り組みが始まっている中、日本でもCO<sub>2</sub>の排出削減など、国際社会の一員として数々のアピールを行っており、我々の身近な所でも一人一人の更なる理解や努力が必要になっていけると感じる今日この頃です。

### 紐野 義昭

ご承知の通り、昨年石川県でも「いしかわ森林環境税」が導入されました。森林の整備保全を目的とするところは、地球温暖化防止対策や山地災害の発生に対して、また安全な県土基盤を形成する上でとても重要であります。厳しい経済状況にある多くの森林所有者の手による適切な林業経営、森林管理の実施は、すでに限界点にきていると言われており、これから荒廃森林の広がり心配されているところでもあります。

この新たな税は、10年間の議員立法であり、昨年4月より一定の所得以上の方々すべてから薄く、広く一年間に一人500円の負担を求めるもので、県全体では約53万人の方々から集めるものであります。

今後、県民の要請に応え得る森林整備・保全の推進と並んで、山村・林業の活性化を図るためには、更なる行政の大きな後押しが必要

と考えます。と同時に、森林保全の意義について理解を深め、自然を守ることに對する県民の皆さんの十分な理解を求めため、しっかりとPRすることが必要であります。

一方、石川県では能登地区や白山系に他県以上に豊かな自然が残っているといわれています。特に能登地区には今なお長い時間が築いてきた自然環境が残されており、貴重な動植物も数多く生息しています。

例えば海岸部では、ハマナスを初めとする豊富な海浜植物が自然植生し、さらに、シロチドリや県天然記念物のイカリモンハンミョウなども生息しておりますが、その生息場所は年々狭められているといわれています。その原因は、ごみの増加や生態系の破壊であると思われませんが、全国では、人や車が入り易い区域を独自に指定し、制限する自治体までも出てきているようです。

子供たちの環境情操教育の観点から「森林の保護」と同様にレッドデータブックなどに記載されている貴重な動植物の保護や、

千里浜

年々深刻化している外来種による生態系の破壊が本県の自然を侵しつつあるということを県民にもっと詳しく知っていただくことが今必要になっていきます。

末永く、石川県の大きな財産である山や川、そして動植物などの自然を守り、次世代に継承していくために県民全体で頑張ってください。組んでいかなければならないと考えますが、石川県造園緑化建設協会の皆さんにもぜひご理解いただき、共に取り組んでいただきますよう期待をし、ご挨拶と致します。

白山





会長 中川 茂

昨年は能登半島地震、新潟県中越地震と相次いで大型地震が発生し大変な被害をもたらしました。

能登半島地震では、本当に他人事ではなく被害地の完全復興を一日でも早くと県民として願っています。協会では今年も微力ながら何かお役に立つ事があれば是非協力したいと思えます。

さて今年、地球温暖化防止に向け京都議定書の約束のスタートの年であり、CO<sub>2</sub>の削減はもちろん吸収源としての森林の役割は大であるが、小さいけれど都市公園も身近なものとして役割があると思います。公園や街路樹の樹木1本1本のCO<sub>2</sub>吸収量などを含め樹木の大切さを、アピールしてゆきたいと思えます。

公共事業の縮小のおり協会自身がいくつかの事業を提案してきました。

その一つとして「緑豊かな学校づくり」をコンセプトとし、小誌「いしかわの学校緑化」を平成15年に作成し、平成16年に四十万小学校のグラウンドを試験的に芝生化しました。通常の維持管理は、学校、保護者、生徒の皆さんに管理していただき専門的なことは、協会が協力してきました。校

庭の芝生化はその後、白山市の蕪城小学校でも整備され、今年度は金沢市新堅町小学校校庭の一部、味噌蔵小学校の中庭が芝生化され、金沢市では毎年2、3校で校庭芝生化の予定と聞いております。

これからも校庭の芝生化が増え、芝生で子供たちに伸び伸びと遊び学んでもらう事が協会全員の喜びでもあります。

今年度の事業として防災公園に取り組んでいきます。一昨年、昨年と東京(東京都)に有る小規模防災公園の視察に行ってきました。近隣1、2町会の人々のための避難場所、防災拠点としての公園です。自宅から遠く離れた避難所では、安全でも精神的に不安定になり少しでも自宅に近い所の方が落ち着くそうです。能登半島地震の時にもそう言う話は聞きました。

小さくても安全な防災公園、心が少しでも安らぐ防災公園、そんな防災公園の勉強、研究をしていきたいと思えます。

これからも、本来の技術の研鑽に励み、又新しい分野にも挑戦し、より良い提案をして行きたいと思えますので、関係各位の皆様並びに会員皆様のご協力の程宜しくお願いたします。

# 抵抗性マツと今後の展開

農林工事部会長 北 総一郎

近年、石川県内でも松食い虫によると思われる被害が拡大してきているようで、健康海浜公園では前年度が5〜600本程度だった伐採処理が、今年度は4〜5倍(二千数百本)の伐採処理数であり、県内でも広がりを見せています。

石川県造園緑化建設協会としては、17年度から能登・金沢(金沢地区では赤松の抵抗性松)・加賀地区で抵抗性松の試験植栽に取り組み、また抵抗性松産地の調査、樹木医による講習会などを行い、調査と研究を進めてきました。前年度の抵抗性松の苗の産地は静岡でしたが、今年度は抵抗性松の先進地である熊本に変え、金沢地区・加賀地区での試験植栽を行い、追跡調査をしていくことにしました。今後、さらに試験

植栽を実施しデータを揃え、協会としてアピールしていくのですが、まずは会員の皆さんが抵抗性松とは何なのか?その生存の確実性は?産地の現状や他の地域の状況はどうなのか?そんな興味をもって、また知識をもつて日々の営業活動をしていくことで、少しずつ仕事に反映されていくのではないかと思っています。一部、抵抗性松の植栽工事は発注されていますが、まだ

業界全体としては、抵抗性松についての意識はそれほど高くないので、今後さらに、会員の皆さんに興味を持って、取り組んでいただきたいと考えております。

また、新規事業・研究についてもやってみたいことは色々あるのですが、従来からの造園業界という枠からはみ出ると興味が薄く、反応が鈍い気がします。これからの公共工事自体、増える見込みは少なく、内容についても厳しい価格での発注で、業界(造園業界)だけではないですが、(と)しては大変厳しい状況になっていくと思われ

ます。しかし、今が他の業界との差別化や業界の進化の大きなチャンス、転換期のような気がします。各々の会社の明日の仕事も大切ですが、次の世代の人達に、今よりも少しでもよい業界として引き渡す責任があるのではないのでしょうか。こんな時期だからこそ、少し視野を広げ、新しい分野に興味を持っていきたいと思えますし、協会員の皆さんから「こんな調査・研究をしたかどうか!」と言った声が沢山あがってくることで、新しい分野が開けたらいいな...っと思っている今日この頃です。

# 『壁面緑化

# 今後の取組み』

企画事業委員長 **中 栄 英 晶**

企画事業委員会では、調査・視察を含め約2年間で、大和タクシー(株)のご好意により片町の大和パーキング内で、実施施工に至り、壁面緑化モデルが協会の皆様の協力もあり完成いたしました。

これにより、当協会が推進してまいりました地球温暖化対策としてもPRしていかるとおもいます。

今後は、石川県内に適した壁面緑化の方法(民間、店舗などに適した壁面緑化・公共事業に適した壁面緑化等も含めて)につ

いて、提案していきたいと思えます。

石川県では、東京のような大都市で行われている壁面緑化はまだまだ普及しづらいと思います。地球温暖化対策としての壁面緑化はもちろん進めて行きたいと思えますが、インテリアとしての壁面緑化もあるのではないかと思えます。

企画事業委員会では協会推進事業としてさらに調査・研究を行い、行政・民間などに壁面緑化事業を働きかけていきたいと思えます。



パネル造作作業



全景

## 『課題の先端者を招いて』

達 茂

農林工事部会、企画委員会がそれぞれ取り組んできた抵抗性マツの試験植栽事業、壁面緑化事業について会員諸氏に更なる理解を深めてもらうために、まとめの形でそれぞれの先端の研究を進む講師を招き、2月2日、石川厚生年金会館にて技術研修会が開催されました。100名あまりの参加者があり、大変活況のようでありました。

前半、樹木医、梅原欣二氏には『マツクイムシ対策』と題して、熊本県から始まったとする、マツノザイセンチュウ病の伝播の経過、症状から樹幹注入剤、抵抗性マツの植栽まで自身の長年の研究と持論を述べていただきました。中で、マツノザイセンチュウ病に対して日本のマツは免疫性が無い為、マツ枯れの対策としては樹幹注入による予防手段しかなく、本当の『マツクイムシ対策』は『抵抗性マツ植栽による、日本中のマツの壮大な品種改良にある』と展開されました。さらに、抵抗性マツの生産に至っては、針葉樹が持つ受粉の特異性のためセンチュウの直接注入を繰り返して出荷することや、より確かな挿し木によるクローン生産の現状などを紹介していただきました。

自然状態では、おそらく数百年、数千年要しても成らないその遺伝特性の改変に対して、人間が挑戦していることを説明する氏の穏やかな口調の中に、マツ一筋の熱い

思いを感じた次第です。講演の一番最初、写真でしか見た事の無いマツノマダラカミキリの成虫の標本や幼虫の穿孔孔状況を見て、興が続いた人もあったのではないのでしょうか。マツ枯れは、我々造園業者にとつては久しく悩ましい病気です。緑化木や庭園樹としてクロマツ、アカマツは欠かせない材料です。抵抗性マツが大いに普及すれば、遠くない将来に安心してお客さんにマツを勧めたり、納めたり出来る日が再度やって来るのではないかと思います。

後半の『壁面緑化』については、(株)日比谷アメニス武内孝純氏に來沢していただきました。当協会の企画委員会が中心となつて、片町の大和パーキングにて試験施工した製品は同社製で、同社指導のもと会員のボランティア作業で竣工したものです。近年、大都市に於けるヒートアイランド現象が大変苦慮されてきておりますが、省エネ効果を評価されて来た屋上緑化、壁面緑化がその対策の一手段として国交省の奨励のもと、盛んに採用されてきております。企画委員会では、その将来の必要性を見越して調査、研究、施工と取り組んできました。

武内氏には同業他社のいくつかの工法、製品を紹介していただく中、施工の工夫や資材の耐久性、管理の必要性、設置場所の可能性等について述べていただきました。大面積の壁面の場合、運搬、組み立て、強

度面に工夫が必要であること。資材の耐久性については、ステンレス製、どぶ付け製品、樹脂製品など腐食に強いもの。管理面では灌水方法、壁面との隙間を有すること。屋内外での設置が可能であることなど説明していただきました。

『壁面緑化』、硬い文字で面倒な設備、先入観はやはり良くないものです。屋内での設置を紹介された時、都会だけの物、わが街ではとても、としていた考えから、自分自身でもその設置場所の可能性が膨らみ広がりが考えられたのです。ハンギングの大きくなったものと捕らえることが出来たのです。人の話は良く聴くものだとつくづく思いました。久しぶりに頭が柔らかくなった事を感じた一瞬でした。

両氏とも、『マツクイムシ対策』、『壁面緑化』の研究では先端を進む技術者だと思います。その講演で少なからぬ刺激を受けた自分にとっては、有益な時間であったことは、確かであり、これからも会員の目を大きく開かせるような、講習会、研修会が開催されればと思います。



受講風景

# 金沢だより

## 街路樹モデル剪定作業

造園工事部会長 本田 壽



石川門

2月7日、8日に中川会長のもと金沢地区の理事8名と造園工事部会、緑地管理部会が中心となり、作業員及び4台のレッカー車を動員して街路樹剪定を実施した。かねてより県央土木総合事務所から理想的な街路樹の姿はいかなる形であるか相談をもちかけられていた経緯があった。

当協会の県民に社会奉仕ができる事柄の一つとしてテーマを掲げ、主要地方道金沢小松線、通称山周り外環状道路の植樹帯をモデルケースとして、長坂3丁目から高尾南2丁目地内のイチヨウ(20本)、ケヤキ(6本)、トウカエデ(5本)、アメリカカフウ(5本)、計36本を剪定した。樹高9メートル、目通り周70〜90センチメートルが主なサイズであり、安全かご付きレッカー車に乗り込んで作業を開始した。

天候はあいにくの雪模様となったが、晴れ間も続いたこともあり、初日のイチヨウは理想的な樹形となった。



講師指導状況

今回は協会員の中より「街路樹剪定士」を認定する講師役の植村章英、村瀬榮一、笠井順二氏らが出席し、15名の作業の指導に立ち会っていただいた。

長坂台小学校付近の住民から、家の前が

明るくなり、整然とした剪定の仕上がりに満足の言葉を聞くことができた。

主要道路での作業は、車線減少のために道路使用許可申請手続きから準備を進め、安全施設として電光掲示板、有資格者、保安要員、歩行者安全誘導員の配置などを行い、落下してくる剪定枝の散乱を極力少なくなる様に積み込み搬出した。

さらに、この作業では街路樹剪定の歩掛りの参考にするために、緑地管理部会長の中田正敏氏が所要時間、人数を記録し、4樹種のデータを集計している。

さて当事業を振り返れば、いくつかの専門技術の習得があった。街路樹剪定士認定研修会に参加できなかった作業員は、今回の講師陣から適切な指導をいただいた事である。

樹木は生長を続ける。特にイチヨウ、ケヤキ、アメリカカフウの場合は、樹幹が太く、主要な枝も太くなる。同じ箇所を切断するとコブ状に変形する。また強剪定の切断をすると翌年は武者立ちのごとく無数の新芽が発生する。翌々年に剪定を1回休むとその武者立ちの形態は濃密な繁茂となり、落葉期には重なり合うほど落葉が積もる。歩行者や車両はスリップを起こす場合が発生する。以上の観点から、剪定回数ローテーションの大切さや、成長部の芽の上下の位置確認と残す本数について細かく教えられたことも教訓となった。

有意義な今回の実地研修にもなった奉仕活動を終わり、都合で出席できなかった会員の皆様に、是非とも次回からの同企画に参画されますようお願い致しまして、報告とします。



作業後



作業前

# 加賀だより

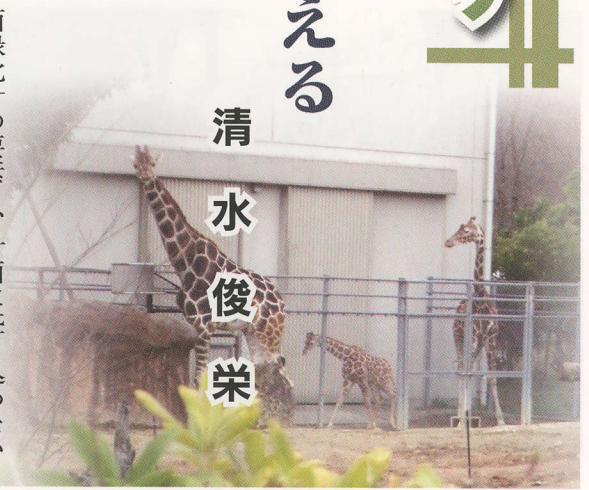
## 加賀地区会

### 『風景街道』を考える

加賀地区会ではこれまで、「自分たちで何か仕事の掘り起こし」をテーマに、「みどりのネットワーク」構想や「史跡・名勝・巨木・名水等整備」構想をまとめ、活動を行ってきました。

今期は県の主要道路及び観光地入り口整備、石川の観光資源としての道作り「いしかわ風景街道(いしかわシーニックバイウェイ)」の整備構想に基づき、各主要インターチェンジ出入り口付近の修景計画について、調査研究を進めて行きたいと思えます。車社会の現代、インターは空港、駅と並んで他県からの重要な出入り口のひとつであるところさえ、そこに降り立ったときに、これからの観光、活動に期待を抱かせる様な、風景の整備が必要であると考えられます。加賀地区会ではこれまでも、「みどりのネットワーク」構想の中で街路樹(県道の調査、研究)の重要性について、街路樹グリーンベルト構想と銘打って提案させて頂きました。ある意味でその出発点ともなるインター前の修景については、華やかさの中にもその地区の特性を付加した計画ができないか、そこに続く県道との関連性をどうもたすかなど、テーマをもって計画に当たっていかうと考えています。

また、県協会あげて取り組んできた、「壁



清水俊栄

面緑化」の要素も、計画に盛り込めないものか、検討しているところであります。

多方面からの意見を聞こうと昨年末には、当協会顧問の藤井県議を囲んでの勉強会を開催、今年3月には「北陸に適した花卉」と題した講習会も開催しました。そういった経緯をふまえ、この記事が発刊される頃には、小松、片山津インターチェンジ前の修景計画もまとめて行きたいと考えています。

ご存知のとおり、緑、花卉にはさまざまな効能効果があり、10年ほど前から提唱されている「園芸療法」もその効果を期待したものです。しかし雑然と植栽され、管理も行きたとかなない緑ではその効能効果も半減すると思います。当地区会では、こういった地道な活動を続けていくことにより、少しでも多くの方に緑の重要性を再認識していただき、「緑化事業の」の意義、重要性に理解を得られればと思います、活動を続けています。



勉強会風景



## 小松市松岡町の『千恵子桜』

立花 栄 志

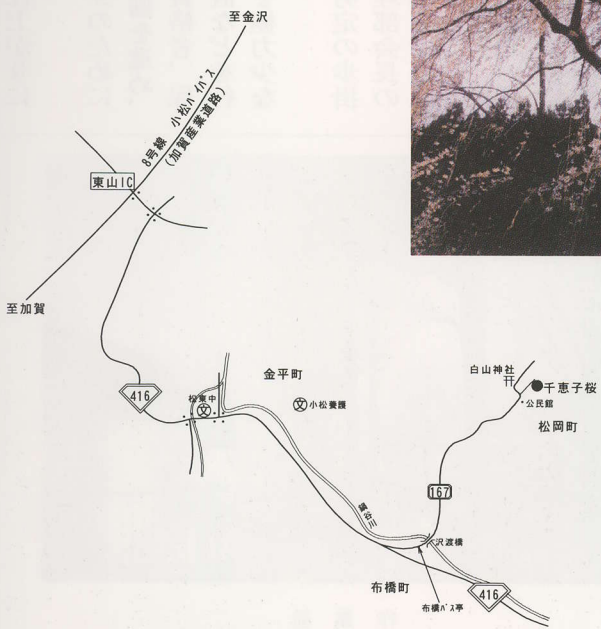
シダレザクラで県内最大級といわれる千恵子桜は、樹齢約六十年で、高さ17m、幹周りは2.6mある。

このシダレ桜は、一九五三年(昭和28年)に、同町の村中(旧姓堀川)千恵子(72)がブラジルに渡る際、いとこが幸せと健康を祈って植樹した。

地元では、「千恵子桜」と呼ばれ親しまれている。

開花時期は4月中旬頃、一度訪れて見てはいかがですか。

場所、小松市松岡町



# 能登だより

## 能登半島沖地震、あれから一年

副会長 井川 國雄

平成二十年三月二十五日九時四十二分。サイレンが晴れた空に鳴り響き、目を閉じ、手を合わせた。それは一年前の震災の時間でした。

失意の底から、再起へと歩んだこの一年。目を閉じれば、昨日のこのようでもあり、うたかたの夢か幻のようでもあります。

日曜ということもあり、遅い出社、いつものようにメールとホームページのチェック。ふと、画面右下の時間表示に目があった。その瞬間、激しい揺れ、ガシャン、ガシャンと大きな音で倒れ、割れる物の中で、為す術もなく向かい合ったパソコンを必死で抑えていた。「もう、止まってくれ！」心で叫んだとて、容赦のない自然の猛威は暴れるだけ暴れ、ようやく鎮まった。しばらく動くことさえ躊躇したが、見るも無残な姿は現実であり、割れたガラスを拾い、本を戻した。しかし、一人で手におえる状況ではなく、諦めて戸外へ出て愕然とした。ここに居ては危険、避難しなければと、使うことがあるとは思ってもいなかった、非常持出袋を担ぎ、ヘルメットをかぶり、海が近いため津波に備え高台に避難。資材置き場のそこは、目を覆いたくなるような悲惨な状態、起こす力さえ湧いてこない。家内

と母の三人、じつと車のラジオから流れる放送に耳を凝らす。震度6強。地震体験車の架空の数字だった。

地震発生後すぐに、日曜にもかかわらずある営業マンから、安否の電話をもらった。彼も神戸地震の被災者と聞き、非常に勇気づけられた。その後、電話はほとんど繋がらなくなり改めて事態の大きさに身が引き締まった。電気、水道、ライフラインは全て閉ざされていた。

お客様はどうしているか？ 施工途中の現場に走る。車の外は、見たことも想像だにしない状況が続く。倒れんばかりの家、ひび割れ、裂けた道路に道を阻む倒壊物。個人レベルではどうしようも出来ない状況だ。食料品を片手に長女、息子達が片付けに駆けつけてくれた。

電気の復旧は殊のほか早く、明かりをつけ、上着のまま着ヘルで仮眠。支援部隊も予想以上に早く自衛隊の給水車からポリタンクで水を貰う。この「水」が被災生活で一番困ったことでした。調理は元より、流しも出来なければ風呂にも入れない。便利な生活は全ての環境が整備された状態での維持であった、普遍ではなく、水が遮断されたときの

無防備なこと。飲料水は比較的入手が容易で、差し入れもある。非常時、多少のことは我慢しても、手を洗うことさえままならず、トイレが使えないのは閉口しました。そんな中、役立ったのが風呂の残り湯です。風呂一杯大人三人、給水車が来るまで何とか自力でまかなうことが出来ました。復旧工事が余震で再工事、水が出たのは一週間も後になってからのことでした。

頑張らなければ、負けてなんかいられない、多少ひびが入り家中壊れたものがあっても、我が家で家族が揃い、蒲団の上で休むことが出来るんだから、贅沢なんか言っちゃいけない、風呂に入れずいいても、垢で死ぬことは無いんだと、粹がり、お見舞いにかけてくださる皆様に精一杯の元気で答えています。「落ち込んでいるかと心配したが、奥さん元気で安心しましたよ。」家内は精神的に張りつめ、気丈に振る舞う事で壊れそうな心を保ち、誰もが普通ではいられない状態で、テンションを必要以上に高く保つことで倒れ込まずにいたのです。命が有った事が、何よりだと感ずるほどの状態だったので、簡単に口に出るご飯は食事とは言い難く、物を流し込むだけの味のない食卓。それから億劫になり、再開したうどん屋さんの温かいうどんが、お腹に、心に染みるほど美味しく、隣の銭湯でのお湯の心地よさは、どこの温泉より勝るものはないと思うほどの感涙。日に日に復旧へと向かいながらも、逆になぜか心を空虚感が襲う。先への不安余震に敏感になり熟睡しきれぬ夜毎。仮住まいのような自宅での生活。目に見えぬ不安と恐怖で精神状態は誰もが切れ切れでした。いつ、元に戻るのか。もう地震はこな

いのだろうか？ 地に足が着いていないような不思議な感覚。振り返れば、あの時は尋常な精神ではなかったとつくづく思います。そんな中、多くの皆様からお見舞いを戴きました。電話が繋がらないから避難しているのかと、手紙を戴いたり、水が出ないと聞いたからと、送ってくれた方。三十年ぶりに電話をくれた先輩。顔も知らない知人のご家族。転勤なされた方。韓国からは名前と大丈夫？ だけの、やっとの日本語で安否確認の電話等々。大丈夫とお互いに答えあった親戚もどこかこか修理していた。あの時点での大丈夫は「みな無事で、家がある。」究極の返事だったので。温かい真心、人の優しさを戴きました。それでいて、忘れてはならないボランティアの若者達。家族の絆、地域の団結、スタッフの協力。本当に多くの皆様に支えられ、励まされ、勇気を戴き、多くのことを学び教えられました。この場をお借りし、改めてお礼と感謝を申し上げさせて頂きます。本当にありがとうございました。ごとうございました。

季節は巡り、またこの地にも、あの頃は見上げることさえなかった、桜の季節がやって来ました。自然の脅威。持てる荷物は片手でも、差し出せば繋がる両手と心。傷ついた心は、木々を育てるが如く、掛けた手間と愛情と時間が少しずつ埋めてくれると信じます。

思いがけないご縁と多くのご恩はどうやって返せばいいのか、返せるものなのか、見当もつきませんが、私たちは生涯胸に刻み忘れることはありません。元気で。どうぞ、能登において下さい。「頑張っています、能登半島」



研修視察

# 足立美術館庭園を見て

加藤 健一

石川県造園緑化建設協会は昨年10月14・15日に参加者22名で島根県の「松江イングリシユガーデン」「松江城」足立美術館庭園への視察旅行を行いました。松江はアクセスが悪く列車や飛行機でなく、全線バスという少々きつい行程でした。

一気に松江まで走り午後2時過ぎにイングリシユガーデンに到着し、皆さんお疲れ気味ですが早速入園し散策を始めました。このガーデンは10,000㎡に550種類の花の植物が植栽されているそうです。花の季節ではないのでイメージしていたほど華やかでなく残念でした。管理も伸び放題のところも見え、もう少しすっきり剪定しても良いと思いました。一回りした頃に英国人ヘッドガードナーのキースゴッドさんが案内してくださることになり説明を受けました。やはり話を聞いてみると、色々な苦勞や工夫をしているようです。最近では洋風の建築が多くなっており、我々も今まで以上にイングリシユガーデンを勉強していかなければと思います。

続いて松江城。ここは山陰で唯一の天守閣だそうで内部は6階建てになっており、桐の階段や、寄木柱など先人の知恵が至る所に駆使されておりました。松江城に隣接



足立美術館庭園

した島根県庁の前に石庭があり、ここは岡山県出身の重森三玲の作品のひとつです。松の配置と石の使い方は思い切りが良く、しかも計算されているようです。他の作品も機会があれば見てみたいです。

今回の宿は宍道湖畔の玉造温泉、歴史ある静かな温泉街でした。料理も酒もおいしく、皆さん楽しく親睦を深めました。ロビー横でお茶と焼き団子のサービスは、なか

なか良かったです。

2日目はメインの足立美術館です。隣接する安来節演芸館の公演時間と合い、半数ほどのメンバーが見学しました。たかが、どじょうすくいと思っていきましたが、名人になるのは簡単なことではないようです。

さて美術館の庭園ですが、さすが何年も続けてアメリカの「ジャーナル・オブ・ジャパニーズガーデンング」で日本一になっているのが納得できます。第一印象は壮大なスケール、完璧に手入れされた樹木に圧倒されました。主庭となっている枯山水庭は個々の手入れも素晴らしいのですが、遠景、中景、近景の組み合わせで雄大な山水の趣を表しています。道路を跨いでいる敷地外の山を背景にし、物凄く奥行き感を出し、しかもその山に15mの人口滝を作り勢いよく流れ落ちる水によって、庭園に動きと緊張感を与えています。しかしある会員は管理しすぎて自然形でない、人工的過ぎる、落ち着かないなどの意見もありました。

次に感動したのは、生の額絵、生の掛け軸といっている美術館の名物の一つです。本当に壁に絵画や山水画が掛かっているようです。我が家にもこのような窓があったらいいなと思いましたが窓の外はすぐ隣の壁です。他には白砂青松という庭ですが文字のごとく白砂と松のコントラストがとても綺麗でした。しかし私が気に入ったのは京風の苔庭や、桂離宮の松琴亭の面影を写して建てられた寿立庵の茶室周りの庭、新しい感覚と伝統的手法を用いて作られた池庭です。特に苔庭は雅で落ち着きのある日本庭園だと思いましたし、山の傾斜地で育

った樹木はすべて斜めに植栽されており、こだわりや工夫も感じられました。

参加者のほとんどが言っておられたのは管理の素晴らしさです。工程表では芝刈りを年間8回もするそうです。この徹底ぶりはずがだと思いましたが、豊富な予算があったのだと思いますので、なかなかここまで出来ないのかと思います。とても素晴らしい庭園でしたが、私は兼六園がやはり一番だと思いました。

名物のどじょう料理を堪能して、また長い長い帰路につきました。今回は視察した庭園も素晴らしくて印象に残りましたが、このバスの長旅も思い出になりました。



松江城